

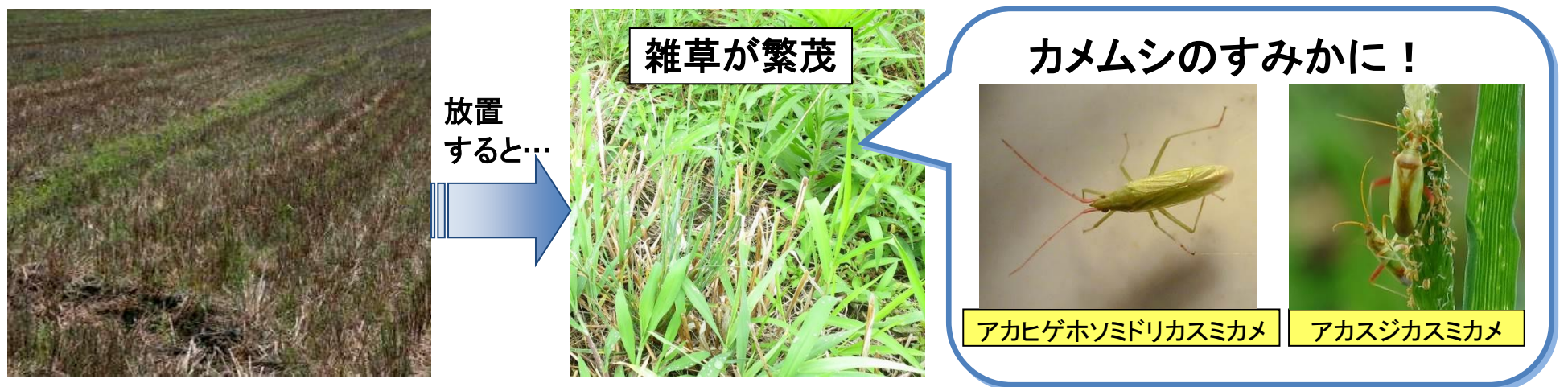
大麦栽培管理情報(特別号)

平成30年5月23日
アルプス管内農業技術者協議会

大麦収穫後の圃場をそのままにしておくとスズメノテッポウ等の雑草が繁茂し、斑点米の原因となるカメムシの発生源となります。カメムシの密度低下を図るとともに、麦跡圃場を有効に活用するため、大豆や園芸作物、ソバ、緑肥作物等の栽培に取り組みましょう。

【大麦跡をそのまま放置するとカメムシの発生源に！】

○大麦収穫後の圃場は、速やかに耕起するなど雑草が繁茂しないように管理しましょう。



【大麦跡圃場の有効活用対策】

経営所得安定対策の産地交付金の対象となります

1. 緑肥作物の作付け

管内圃場でも地力の減耗が進んでいます。クロタラリアを作付けし、雑草の発生抑制と地力向上に努めましょう。

- ◇品 種 名：「クロタラリア」（細葉）
または「ネマクリーン」（丸葉）
- ◇播 種 量：5～6 kg/10 a
- ◇播 種 時 期：6月中旬～7月上旬
- ◇すき込み時期：8月下旬
- ◇作付けの効果：
 - ①雑草の発生を抑えます。
 - ②すき込むことで、土壤に窒素や腐植が供給されます。
 - ③翌年の水稻の基肥量を2～4割減らすことができます。

※大麦や大豆に緑肥作物を組み合わせる輪作体系の技術実証に取り組んでおり、大麦跡のクロタラリアの作付けを推進しています。



2. 園芸作物の作付け

大麦跡に作付ける園芸作物としては、「キャベツ」、「にんじん」等の野菜が挙げられます。

いずれも水稻の収穫作業と競合せず、機械化体系が整備されていることから、規模拡大が可能です。

また、「にんじん」は調製選別作業も省力化されており、初心者でも取り組みやすい野菜です。

※大麦収穫後、麦稈を速やかにロータリやプラウですき込むことが大切です。



キャベツの作型

品種：天藍、新藍、冬藍

作型	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
夏まき		● 播種	● 定植	▲ 追肥①	▲ 追肥②	■ 収穫	



にんじんの作型

品種：向陽2号、彩誉

作型	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
夏まき	● 播種				■ 収穫				■ 雪下収穫

上記の対応策の中から、皆さんができることに取り組みましょう！

なお、詳細については、JA営農指導員・農林振興センターへお問合せ下さい。